

里仁第四

子曰、朝聞道、夕死可矣。

し い わく、 あした みち き 朝に道を聞かば、 夕方 し か 夕に死すとも可なり。

(4-74)

<子曰わく、朝に道を聞かば、夕に死すとも可なり>

Q:「子曰わく、朝に道を聞かば、夕に死すとも可なり」とは何ですか。

A: (1)「孔子が言った。その日の朝、正しい道を悟り得たとしたら、その日の夕方、死んだとしても満足である。(道を悟り得なかったなら、長生しても、何の意味もないものになってしまう)」の意。

(2)「もし朝方に我々が当然行わなくてはならぬ人たりの道を聞くことができたなら、かりにその晩死んでもよろしい」の意。

(3)「聞道」の「道」とは、「事物当然の理」のこと。人にとっては、人のふまねばならぬ当然の道。人としてかくあるべき道」の意。

(4)「朝・夕」は短い時間の意を表す。

(5)「可なり」は、まあよろしい、まあ満足してよい。

(6)人生の目的は、道を聞いて、之を体得し、実現することを似て終わりとする。君子たるものは道を聞くことができたなら、いつ終わりを迎えてもよい。

2011年6月8日林明夫記